

## 再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道55号 南国安芸道路(芸西西～安芸西)	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：高知県安芸郡芸西村西分 至：高知県安芸市馬ノ丁	延長	8.5km		
<b>事業概要</b> 一般国道55号は、徳島市を起点に阿南市、海陽町、室戸市、安芸市などを經由し、高知市に至る延長約200kmの主要幹線道路であり、四国広域交通ネットワークを形成する基幹動脈として、地域の生活や経済、観光の振興に大きな役割を果たしている。 一般国道55号南国安芸道路(芸西西～安芸西)は、高規格幹線道路網を構成する自動車専用道路として整備される高知東部自動車道の一部であり、高知自動車道及び阿南安芸自動車道と一体で機能することにより、四国8の字ネットワークを形成し、高知県東部地域の広域交流の促進及び地域活性化に大きく寄与する道路である。 また、南海トラフ地震や津波発生時の緊急輸送道路の確保、地域産業（観光振興）の支援、第3次医療施設への迅速な救急搬送の支援などを目的としている。					
H23年度事業化	H11年度都市計画決定 (H一年度変更)	H26年度用地着手	工事未着手		
全体事業費	約365億円	事業進捗率	約4%	供用済延長	0.0km
計画交通量	10,500～12,100台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.2 (残事業) 2.5	総費用 (残事業)/ (事業全体) 281/324億円 (事業費：261/304億円) (維持管理費：20/20億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 697/697億円 (走行時間短縮便益：594/594億円) (走行経費減少便益：78/78億円) (交通事故減少便益：25/25億円)	基準年 平成27年	
<b>感度分析の結果</b> (残事業について感度分析を実施) (事業全体) 交通量：B/C= 1.8～2.6 (交通量 ±10%) (残事業) B/C= 1.9～2.7 (交通量 ±10%) 事業費：B/C= 2.0～2.3 (事業費 ±10%) B/C= 2.3～2.7 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C= 2.1～2.2 (事業期間 ±20%) B/C= 2.4～2.6 (事業期間 ±20%)					
<b>事業の効果等</b> 南海トラフ地震発生時の緊急輸送道路の確保、地域産業（観光振興）の支援、第3次医療施設への迅速な救急搬送の支援など多様な効果が期待できる。					
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の時間損失の削減が見込まれる。 ・現道等の旅行速度の改善が見込まれる。 ・現道等の混雑緩和による定時性の確保など路線バスの利便性向上が見込まれる。 ・JR高知駅（特急停車駅）へのアクセス向上が見込まれる。 ・高知龍馬空港（第二種空港）へのアクセス向上が見込まれる。					
②物流効率化の支援 ・高知港（重要港湾）へのアクセス向上が見込まれる。 ・高知県東部における農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる。					
③国土・地域ネットワークの構築 ・高知自動車道及び阿南安芸自動車道と一体で機能し、四国8の字ネットワークの形成に寄与する。 ・隣接した日常活動圏中心都市間（安芸市と高知市）を最短時間で連絡する路線を構成する。 ・日常活動圏中心都市（高知市）へのアクセス向上が見込まれる。					
④個性ある地域の形成 ・「観光振興プロジェクト」、「過疎地域自立促進プロジェクト」、「ゆず振興プロジェクト」を支援。 ・高知県東部地域への観光アクセスの向上が見込まれる。					
⑤安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（高知医療センター）への搬送時間が短縮し、60分圏域が拡大する					
⑥災害への備え ・道路寸断で孤立化する集落の解消が見込まれる。 ・国道55号が通行止めになった場合の代替路を形成する。 ・南海トラフ地震発生時の津波浸水想定箇所を回避し、緊急輸送道路のリダンダンシーを確保する。					

⑦地球環境の保全

- ・CO2排出量の削減が見込まれる。

⑧生活環境の改善・保全

- ・NOX、SPM排出量の削減が見込まれる。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等

- ・高知東部自動車道整備促進期成同盟会等より、本事業の整備促進について積極的な要望活動が続けられている。

高知県知事の意見：

- ・事業継続に異議はありません。高知東部自動車道は、四国8の字ネットワークを構成する幹線道路であり、南海トラフ地震時に迅速かつ円滑な救援活動や物資輸送を行うため必要不可欠な「命の道」とともに、高知県東部地域の活性化のための基盤としても重要な路線であり、地域住民もその完成に期待を寄せています。そのため、国においては、早期の供用を目指し、より一層の事業進捗をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成20年7月 高知自動車道（南国IC～高知IC）延長7.6km 4車線化
- ・平成22年6月 県道高知東インター線 延長0.5km 開通
- ・平成22年6月 高速道路無料化社会実験（高知IC～須崎東IC）実施
- ・平成23年6月 高速道路無料化社会実験（高知IC～須崎東IC）一時凍結
- ・平成23年3月 高知東部自動車道（香南やすIC～芸西西IC）延長3.9km 2車線開通
- ・平成24年度 一般国道55号安芸道路 延長5.8km 事業化
- ・平成25年2月 高知東部自動車道（香南かがみIC～香南やすIC）延長2.9km 2車線開通
- ・平成26年3月 高知東部自動車道（香南のいちIC～香南かがみIC）延長2.2km 2車線開通
- ・平成27年3月 高知東部自動車道（高知南IC～なんこく南IC）延長4.7km 2車線開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・用地進捗率10% 事業進捗率4% （平成27年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・早期の工事着工を目指し用地買収を推進する。

施設の構造や工法の変更等

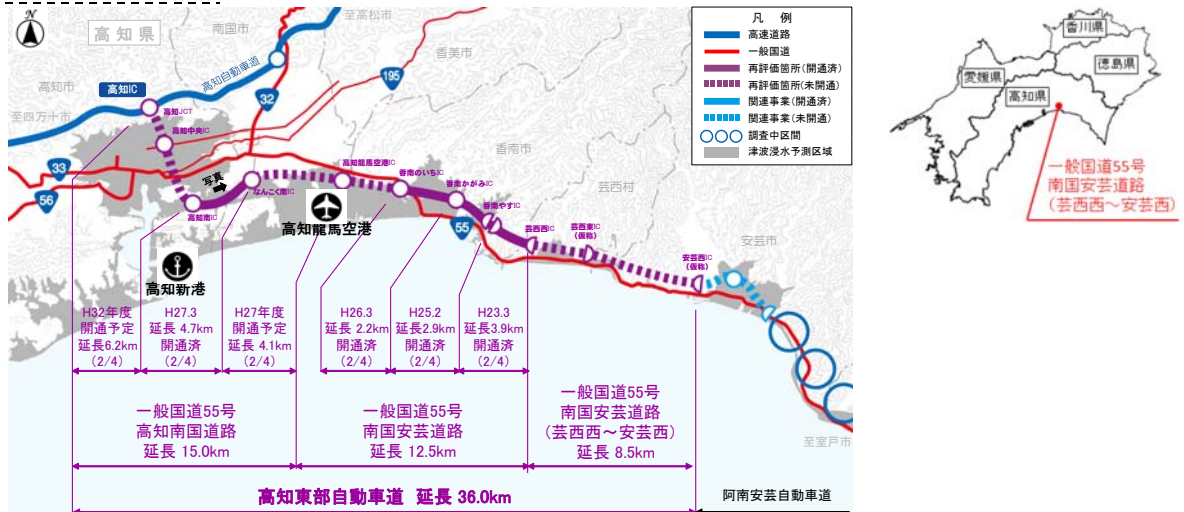
- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

対応方針

事業継続

- ・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。  
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。